

巻・頭・言

# ウイルスの次に くるもの

新年度がスタートしました。朝の通勤時に黄色いランドセルの新一年生を見て、待ちわびた春を感じる時期です。しかし今年とはまったく違うことになっています。

1月末に中国・武漢市で新型コロナウイルスによる感染症が発生し蝙蝠等から人に感染して拡大しているというニュースが流れました。この時点では、中国人の野生動物を食べる文化の風土病みたいなものと思い、まったく他人事でした。

2月になって道内で中国・武漢市からの観光客が初めて発症し、まもなく道内各地にも感染が広がりました。28日に鈴木知事が緊急事態宣言を出して外出自粛を道民に要請し、社内外での全ての宴会や会合が続々と中止になりました。

3月には全国で感染が広がり、遂に4月8日に安倍首相が東京など7都府県を対象に5月6日まで(31日に延長)の緊急事態宣言を出し、17日には北海道も「特定警戒」に指定し、更なる外出自粛や3密(密閉・密集・密接)回避の徹底を要請しました。

本当に最初はみんな他人事と考えていましたが、こんなスピードで戦後最悪の国難になるとは誰もが想像できなかったのではないのでしょうか。

歴史を振り返れば、これまでに幾度ものパンデミックを経験してきました。14世紀ヨーロッパで流行したペストや1918年に世界中に感染し5,000万人が死亡したスペイン風邪などがあります。

ペストの流行は、社会不安の大混乱を生じさせ、中世ヨーロッパの教会は権威を失い、強力な主権国家を形成する近代を迎えることになりました。パン

植村 豊樹 (うえむら とよき)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人日本技術士会北海道本部  
社会活動委員会 委員長



デミックは大きな社会変化をもたらすという歴史の教訓かもしれません。

新型コロナウイルスの拡大を受け、私達のライフスタイルが一変しています。接触人数の8割を減らすため外出自粛の生活が進み、企業ではテレワークが加速、医療も初診からのオンライン診療が解禁となりました。日本企業の長年の習慣やルール、国の岩盤規制までも動かしました。

一方で、コロナ不安が増大しています。日本赤十字社の『ウイルスの次にやってくるもの』という動画を時間があれば見て欲しい。この動画はウイルスより怖い、人の心に棲みつく見えない恐怖について警鐘を鳴らしています。

感染してしまった人、医療従事者やその家族が誹謗中傷、差別を受けていると聞きます。その根っこには、先の見えない恐怖への過剰防衛があるのでしょうか。パンデミックのあと、人と人とが傷つけ合って分断する社会になって欲しくない。

ワクチン開発も早急に進めて欲しいが、コロナの恐怖に打ち勝つワクチンによって自分の心の中に、免疫を持つ事が一番大切なのではないだろうか。